

庶民の街 400年の哀歓まとめる

名古屋の身近な歴史を紹介してきた堀川文化探索隊代表・沢井鈴一さん(71)(春日井市)が「名古屋大須ものがたり」(B5判、112頁、税別500円)＝写真＝を出版した。名古屋開府以来、庶民の街・大須がたどった400年の哀歓を、大須門前、赤門・万松寺界隈など四つのエリア別に48のエピソードで記している。

芝居や寄席、映画など興行にまつわる話では、御昼奉行として知られる尾張藩士朝日文左衛門が登場。人



「名古屋大須ものがたり」出版

堀川文化探索隊代表・沢井さん



沢井さん

目を忍んで浄瑠璃や見せ物見物に足しげく通う様子を記した日記「^{おうむろうちゅうき}鸚鵡籠中記」から、当時の大須のにぎわいを伝えている。

また、にぎわいが消えかけた大須で、1979年から2008年まで続き、庶民のエネルギーを爆発させたスーパー一座のロック歌舞伎のことなど、興行との深い縁をたどっている。

日本全国に「シャッター街」が増える中で、大須は今も名古屋有数の繁華街だ。しかし、沢井さんは「今、商売しているのは外から来た人たち。個人で商売をしていくのが難しい街になってしまった」という住民の嘆きにも触れている。

市内の主要書店で販売中。問い合わせや注文は「あるむ」(電052・332・0861)へ。